

# 議 事 録

作成者:今野、仲村、伊波

件名	平成28年度 第2回北中城村グッジョブ地域連携協議会				
年月日	平成28年11月14日(月) 15:00~16:30	場所	北中城村役場 別館会議室		
出席者  ※順不同 /敬称略	<p>北中城村長 新垣邦男                  村議会 建設文教委員長 天久朝誠                  教育委員会 教育長 森田孟則/教育総務課長 喜納克彦/指導主事 伊波寛仁/生涯学習課長 名幸芳徳                  北中城村立島袋小学校 教頭 知念靖                  北中城村立北中城小学校 校長 知念良和                  北中城村立北中城中学校 校長 照喜名朝盛                  北中城村商工会 会長 安里邦夫                  北中城村企画振興課長 石渡一義/係長 棚原昌也                  (株)ケイオーパートナーズ 代表取締役 富田治敏/取締役 喜屋武裕江/チーフ 伊波直哉/コーディネーター 高里彰吾/コーディネーター 新垣和巳</p> <p>●オブザーバー:北中城村PTA連合会長 名幸利積</p>			配 付 資 料	【配布物】 ・式次第 ・参加者名簿、座席表 ・資料1 第1回協議会議事録 ・資料2-1 実施報告書 ・資料2-2 アンケート集計結果 ・資料3 連携団体ヒアリングまとめ
協議・確認事項				意見交換・質疑応答	
1. 開会	○司会:株式会社ケイオーパートナーズ 伊波直哉(以下、伊波) これより第2回北中城村グッジョブ協議会を開会する。 ・配布資料の確認。次第、参加者名簿、座席表。資料4種:資料1:第1回協議会の議事録、2-1 実施報告書、2-2 アンケート集計結果、3 連携団体ヒアリングまとめ。				
2. 出席者紹介	名簿参照。なお、本日は島袋小学校の新里校長に代わり、教頭の知念靖先生がお越しになっている。18番ケイオーパートナーズの贅は本日体調不良のため欠席。残りの方々は参加するというご連絡は頂いているので、遅れての参加となる。本日20名にて会を進める。				
3. 会長挨拶	○北中城村長 新垣邦男(以下、新垣会長) 大変お忙しいところだと思うが、ご参加いただきありがとうございます。 第2回の地域連携協議会、これまでの取組み状況を踏まえ、皆さまからご意見を頂いて進めていきたい。資料の説明をお願いしたい。				

<p>4. 協議会会員の新規加盟について</p>	<p>○伊波 これよりの進行は本協議会会長が行う。</p> <p>○新垣会長 私の方で進めていく。協議会会員新規加盟について企画振興課係長より説明する。</p> <p>○北中城村企画振興課係長 棚原昌也（以下、棚原） これまでオブザーバー参加の北中城高等学校、協議会への新規加入について、グッジョブ事業での関わりと合わせて説明する。 平成24年度、県の一括交付金事業としてスタートし、翌年度に「北中城村グッジョブ地域連携協議会」を発足した。平成27年度からは村の一括交付金事業として新たにスタートし、その年から北中城高等学校が事業に加わっている。事業の詳細については後程、中間活動報告にて報告するが、北中城高校OBによる出前フォーラム、イオンモール沖縄ライカムでの産業視察、テクニカルビジットを実施している。 今回、北中城高等学校が協議会加盟することで、小学校から高校までの子ども達の発達段階に応じた産学官・地域連携が期待できると事務局では思っているため協議会加盟についてご審議頂ければと思う。</p> <p>○新垣会長 この件についてご質問やご意見等があればいただきたい。 ないようなので本件、会員の新規加盟について承認ということによろしいか。</p> <p>○一同 異議なし</p>	
<p>5. 中間活動報告</p>	<p>○株式会社ケイオーパートナーズ コーディネーター 高里彰吾（以下、高里） 北中城村では平成24年度からグッジョブの活動をスタートし、昨年度からは村独自の事業「北中城村グッジョブ連携推進事業」としてスタートし、今年度は2年目の取組みである。昨年同様、村内の小、中、高校でのそれぞれの取組みを行っている。 小学校では働くことへの興味・関心を持たせ、夢や希望を育むための取組み。中学校では幅広い仕事に触れさせ、自己理解と職業観を高めるきっかけ作り。高校生では具体的な進路決定に向けて自分が身につけるべき力とは何か、そして国際</p>	

的な視野を養うための取組みを行う等、発達段階に合わせたキャリア教育の視点を組みあわせ、各取組みを行っている。

また、北中城村が目指す“平和で人と緑が輝く健康長寿のむら”の実現に向けて、観光や医療、福祉、農水産業の発展や、各産業に必要な人材、必要な力について、視点の中に組み入れて取組みを行っている。

・小学校実施報告。今年度、小学校では6年生を対象にジョブシャドウイングを行った。北中城小学校では7月5日に125名で実施し、島袋小学校では7月8日に61名、両校合わせて合計198名に対してジョブシャドウイングを行った。協議会では、企業開拓数は354の企業を開拓した。北中城小の受入れが可能と表明頂いた企業数67企業、うち実際にお願ひした企業66企業、メンター数123名。島袋小学校では59企業が受入れ可と表明頂き、うち36企業にお願ひした。メンター数61名。

・北中城小学校の取組み。動機づけは5月10日火曜日の6校時に行った。職業人講話が6月5日日曜日の授業参観の日に実施を行い、保護者の方にも見て頂くことができた。講師は、医療法人中部徳洲会病院、副看護部長の島袋盛人様。病院の中にも医者や看護師だけではなく、たくさんの職業の方々が協力し合い、それぞれが連携し合うことで、様々な患者、お客さんに対して、医療を提供することができる。

「看護師だけいても病院は回ることはできない。医者だけでも、病院が治療を行ったり、患者さんを治すことはできない」と説明し、子ども達へ職業の広がり、1つの産業（医療産業）の中に沢山の職業があることを伝えた。

マナー学習は6月29日5、6校時に行った。児童がそれぞれ名刺を作り、各メンターや、企業・関係企業への挨拶として実際に名刺交換を行う。マナー学習で伝えているのが「マナーは思いやりと感謝の気持ち」ということ。きれいな形や企業訪問だけのマナーではなく、今後、中学校、高校でのステップの中、又は社会人になった後、身につけておくことで、活用することができるということを伝えた。振返りのまとめ学習も、7月4日5校時1コマで行っている。

・島袋小学校の取組みについて。動機づけを5月22日日曜日、授業参観日を活用して行った。ジョブシャドウイングを行う前に「人はなぜ働くのだろう」と児童に考える機会とした。実際に子ども達の保護者や先生等多様な大人にインタビューを行うことにより、「なぜ働くのか」について子ども達が理解する機会を作るこ

とができた。このような取組みを通して保護者や地域の方々に関わっていただくことで、子ども達の職業観の幅が広がり、保護者に対しても本事業の理解を深めることができたと思う。

職業人講話は事後学習として7月13日に行った。講師はイオンモールおきなわライカムインバウンド観光客誘致特命担当の荻野利明様。イオンモールライカムは、子ども達にとっては買い物をする所という印象が強いが、なぜ北中城にあるのか、またライカムを中心として今後北中城村がどのように発展していくのか、そこから付随して、クルーズ船のこと、外国人観光客やアジアの方々がたくさん来ていることについて観光の視点から子ども達に伝え、今の北中城村、未来の北中城村はどのようになり、どんな仕事や働く人たちがいるのかを伝える機会となった。

・ジョブシャドウイング実施について。北中城小学校では7月5日、島袋小学校では7月8日に行った。訪問先は子どもにとって近隣の建物や会社等、よく見るが、企業の仕事内容や、どんな人が働いていてわからない。子ども達は緊張しつつも、働く人の思いや働く人の姿勢、どのような言葉遣いで、どのようにお客様に対応しているか等をしっかりと観察した。

・平成28年度ジョブシャドウイング企業開拓数354社。うち受入れ企業実数102企業、メンター数は両方合計184名のご協力をいただくことが出来た。

・中学校の取組み。主に職場体験の事前学習と企業開拓に取り組んでいる。事前のマナー学習5月24日、本協議会コーディネーターが担当となって実施した。挨拶の練習、お辞儀、立ち方、名刺交換を行い、小学校同様思いやりと感謝の心をもって職場体験の実施に臨むよう伝えた。また、今回職業人講話として6月14日、弊社取締役でもあり、一般社団法人グッジョブおきなわプロジェクト代表の、喜屋武より進路講話を行った。

職場体験は6月28日～30日と3日間行った。みんな楽しそうな様子で、各村内事業所にも心よく受入れて頂き、実際に子ども達に仕事を伝え、教えることができずごく良かったと言ってもらえた。子ども達からも「大変楽しかった、これからの社会人になるための活動の備えや力にしたい」と感想があった。職場体験企業開拓数は354社。生徒数173名に対して、受入れ企業実数は45企業にご協力頂いた。

・北中城高校での取組みの報告。進路講話として出前フォーラム「ようこそ先輩ジョブトーク」では村内出身・北中城高校の卒業生2名によるトークセッション

型の職業人講話を行った。講師は、中城海上保安部呉屋秀樹様と昨年度も出前フォーラムにてご協力いただいた株式会社マルキン金城孝文様。またファシリテーターに村教育委員会学校支援コーディネーター喜納綾子様にご参加いただいた。呉屋様は公的機関で働いており、高校卒業と同時に海上保安庁の専門学校に入り、そこから九州や離島等の様々な勤務地を経て、現在、中城の海上保安部に勤務をされている。株式会社マルキンの金城様は、職業訓練校を卒業した後に20代前半に村内で起業し、現在に至るまでご活躍されている。生まれた地域でずっと仕事をされている方と、様々な地域で活動して村に帰ってきて活動をしている方の、両者からお話を伺うことが出来た。生徒からは、学校の勉強が社会でどう役に立つかと質問が上がった。生徒は講師から、学校の勉強や勉強以外にも忍耐・チャレンジ、学校生活、部活動、友達付き合い、友達をつくることも大事なことだと理解した様子だった。感想が皆様のお手元にあるアンケートの中に生徒の言葉を載せているので、後程ご確認いただければと思う。

・「きたなかキッズ JOB クラブ」の報告。昨年度、「ちゃれんじ JOB」という名前で活動していたが、今年度から「きたなかキッズ JOB クラブ」と名称を改めて、夏休み期間6日間をかけて事前学習、職業体験、事後学習の3つのプログラムを行った。開校式では天久副会長、森田教育長からそれぞれご挨拶を頂いた。

1日目は“北中城村について知ろう”というテーマで事前学習を行った。北中城村の文化、歴史を学び、2日目は“北中城村の現在を知ろう”。イオンモールライカムの見学活動を通じて、今発展している北中城について学んだ。3日目は“外から見た北中城村について知ろう”。村内の地域おこし協力隊のご協力を得て、県外から来ている方々に北中城村の魅力についてお話を頂く機会を設けた。このような事前学習を踏まえて、4日目は北中城村にどのような魅力があり、どのような人が働いているか実際に体験する。村内の事業所、第1次産業の生産、第2次産業の加工、第3次産業の販売の3つの部門に分けてそれぞれの体験をした。また、事後学習では、体験学習を振り返り、各児童が体験活動のまとめと、夏休みの自由研究課題としても達成できるよう資料の製作等を行った。

今回、申込件数45名、うち参加者36名であった。子ども育成会や各自治体、教育委員会、村内のスポーツ部門のチームより紹介と多くのご協力を頂いた。受入れ事業所は、生産、加工、販売の計11事業所にご協力を頂いた。

生産の部門では主におくらの収穫や、ネギの仕分け。加工部門では城まんじゅうのまんじゅう作り、実際に児童が作ったまんじゅうを最終日の事後学習に、蒸していただき提供して頂いた。また販売では、安座間珈琲で実際のコーヒーを焙煎

して入れる作業や接客等、作業をさせて頂いた。  
事後学習 1 日目は、体験活動を振り返り、それぞれが体験したことを資料にまとめる作業と「10 年、20 年後の北中城村の村長になったつもりで未来の北中城村、みんなの理想とする北中城村を考えてみよう」というグループワークを行った。  
事後学習の際にラジオ沖縄の取材があった。ラジオ沖縄「EM オアシス」で、8 月 15 日から 19 日の 5 日間放送をして頂いた。事後学習最終日には、交流会として保護者の方々や職業体験にご協力いただいた事業所にご参加頂き、流しそうめん大会を行った。場所は村教育委員会前をお借りして、子ども達も大興奮で、6 日間のプログラムが本当に楽しかったという気持ちで無事に終わることができた。児童が作成した成果新聞の一部を本日お持ちした。それぞれ色を使って行っているが、未来の北中城村、自然とかかわりながら産業を発展させていきたい、等様々な感想があった。児童にアンケート調査行ったので、お手元の資料を後程ご覧いただきたい。  
修了式では、会長から修了書を授与して頂いた。児童の感想として、多くの働く人と関わり自分も将来北中城に貢献する気持ちで仕事をしたいとあった。

・その他、広報活動について、北中城しおさいまつりやエイサーまつりでのパネル展を行った。村内小学校 5、6 年生にも協力頂き、子ども達に願い事を短冊に書いてもらったものをパネルとして展示した。また、広報誌、ブログ、フェイスブックを通して事業の広報活動、発信を行っている。今年度、新たに本協議会のウェブサイトオープンした。ウェブサイトを通して地域連携協議会の説明や地域サポーター募集について発信している。ぜひ、ご確認頂きたい。  
その他、北中城高校の進路講話や、北中城中学校と村教育委員会と連携して村内教員対象の講演会等をさせて頂いた。また 8 月 12 日、県雇用政策課の事業「地域プラットフォーム事業」で事例報告を行った。「地域の未来を考えるフォーラム」という事で、地域コーディネーター、または教育委員会、市町村担当者に事例を発表した。資料提供として、北中城中学校職場体験でお受入れ頂いた企業のアンケートと、“事業所向け 中学校職場体験受入れマニュアル”を、学校側へ提供させて頂き、平成 28 年第 53 回全九州中学校進路指導キャリア教育研究大会沖縄大会での事例発表で活用して頂いた。

・今後の予定としては、来週金曜日に北中城中学校「校内ハローワーク」を行う。村内の観光、医療、福祉、建設産業、農水産業それぞれに講師を一人ずつご協力いただき、複数人型の職業人講話の実施を行う。建設産業の講師として、安里会

<p>5. 意見交換</p>	<p>長の沖永開発にもご協力いただく。12月11日には、北中城高校、村内在住、在校の高校生を対象とした「テクニカルビジット」をイオンライカムで行う。1月には、各自治会、役場等でのパネル展示での開催、2月には第3回目の協議会を予定している。</p> <p>○伊波 ここからは進行をコーディネーターの高里と伊波で行う。 先ほど高里から報告があったが、本日の資料の中に簡単な実施報告書を添付している。各実施の詳細等はこちらをご覧ください。また、年度末に報告書をまとめるので、改めて年間の成果と課題も踏まえ、会員へお渡ししたい。 各学校の取組みについてはご報告したが、意見交換では各学校からもご意見、ご感想また他の会員に聞きたいことなど伺いたい。 協議会を開催するにあたり、みなさまには事前に「ヒアリングシート」を配布させて頂いている。このシートをもとに、本日は進行させていただく。より良い地域連携になるよう、また未来の人材育成を進めるためにも、さらに次年度の計画を立てる上でも、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思う。 まず今年度取組みを実施した各学校から、ご意見ご感想等をお願いしたい。まず北中城小学校の知念校長、お願いしたい。</p> <p>○伊波：ちなみに時期の検討について、学校行事と被らないように、また年間計画に入れていくために、早い時期から私たちと学校との調整をさせていただきたいと思うが、具体的に何月頃または何学期頃がいいとかという希望はあるか。</p> <p>○株式会社ケイオーパートナーズ取締役 喜屋武裕江（以下、喜屋武） 今年の年間計画を立てる時にご相談したい。</p>	<p>○北中城村立北中城小学校 校長 知念良和（以下、知念校長） 良かった連携としては、多くの事業所を見学したこと。学校独自の取組みとしては厳しいと思う。その意味で、連携協議会が力を発揮したと、6学年の先生より意見があった。このような形でいい機会になったので、今後もまたぜひ連携していきたい。 困った点、課題として挙げられるのは時期。平和学習を総合的な学習の時間を使ってすすめている。平和学習は大体、6月23日慰霊の日前後に取り組んでいるので時期が近いということで、もう少し相談したいとの要望がある。その1点なので、また次年度もよろしくお願いしたい。</p> <p>○知念校長 1学期が良いと思う。おそらく1週間ぐらいの微調整になると思う。</p>
----------------	--	--

<p>○伊波        続いて、島袋小学校 知念教頭先生、お願いしたい。</p> <p>○伊波        次年度もジョブシャドウイングは継続できたらと思っている。改めて各学校と具体的な日付、事前学習、事後学習を決めたい。今回、発表会の日程がまだ決まっていないとのことで、企業から発表会を、子ども達の様子を知りたいというお声も毎年いただいているので、出来れば学校でも検討して頂きたい。        安里会長から受入れ事業所としてのご意見、ご感想等お願いしたい。</p>	<p>○北中城村立島袋小学校 教頭 知念靖（以下、知念教頭）        今回、（受入れ企業が）36社。大変幸せだなと子ども達を思っで見ている。事前の学習もしっかりしていて、子ども達の様子を見に行った時に事業所の方に質問したら、「ちょっと待ってください、メンターの方がいますから」と、大きい事業所ではなかったが、非常に地域に定着している事業所だなというのをとても感じているところである。        去年の反省要望の中で、去年は10月で運動会、音楽発表会、中学生、高校生とも重なっていて大変だったとの意見があった。今回1学期に変更してもらいとても助かった。担任の方からは2時間程度っていうのをもう少し長くできないかなということもあるが、子どもにとって2時間でもいっぱいいっぱい感じた。琉球銀行に顔を出した時に、「頑張ってるね」って声かけたときに、やっとニコッとしたって、銀行の方も「やっと笑ったね」っていうようなこともあった。この事業は、とても良い取組みなので10年後20年後が楽しみかなと、この子ども達が大人になった時に、どれだけ地域で頑張れる子になるかっていうのが楽しみである。</p> <p>○北中城村商工会 会長 安里邦夫氏（以下、安里会長）        今年度、両小学校のジョブシャドウイングで、事業所として関わらせて頂いた。先ほど中間報告では事前の学習等いろいろな活動をされて、その上で出発式、そして各事業所に当日向かったとの報告を受け、やはり児童生徒、学校、行政機関、ケイオーパートナーズでしっかり事前にミーティングや、生徒に対する訓練をされていると感じた。その成果がうちの会社に来て、両校の児童が丁寧に名刺交換をしたり、職場でも事前に準備して、テキパキとこの時間内に行っていた。子ども達の姿勢に感銘を受けた。        また早速終了後に皆さんから、感想などのお礼文と、児童の直接メ</p>
--	---



<p>○伊波  本日、高校は日程的に難しいとのことで参加はないが、第3回を年明け2月頃予定しているので、高校の先生にも来ていただき、安里会長からも直接建設業の思いをお伝えいただければと思っている。  今回の中学校の職場体験で、協議会での企業開拓、事前学習、マナー学習、職業人講話を行ったが、中学校の先生方にもぜひご感想をお聞きしたい。</p>	<p>ンターへの感謝の言葉や手紙を頂き、うちの会社も全社員に周知、掲示して、ジョブシャドウイングに今後も関心を持ってもらうことを行った。会社としては小学生にとって良い受入れ事業所として続けたい。  今後、中学生も受入れたいが、6月決算の時期と重なったことや、技術施工関係の会社なので現場の動きや時期等タイミングが合わず、失礼した。4月～6月末だと社員も現場からあがってくるので、中学生向けにも5月末までだと可能かと思う。また7月以降、8～10月に技術現場で3日ほど現場代理人をつけて訓練できると思う。その間は現場事務所、直接現場の施工、普通の工事現場にも引率できると思うので、事前に打ち合わせてヘルメット等備品を準備させていただければ、今後建設業者が数社いるので、参加協力させていただくと考えている。  商工会には、製造工場、生産販売関係などたくさん会員も加入している。その異業種と拡大して、より多くの事業所で多角的に協力して連携をしていきたいと考えている。  それから、高校生が今年から会員として参画できるようになった。実は私の会社にも卒業生が技術関係総務課で頑張っている。その中で、企業としては直接体験や体験学習をして頂いて、会社としても人手不足なので、生徒できれば生徒や先生方にもお会いして、卒業後は村内の企業にぜひ就職してもらおうような、採用についてのフォームを、学習を通して情報交換させて頂ければなと思っている。高校3年生などの進路状況についても、情報を頂ければ就職希望者については対応したいと思う。また、直接窓口であるハローワークもあるので、そこを通して具体的に学校側と3月卒業に向けて連携を取らせて頂ければありがたい。いろいろ沢山の経験ができるシャドウイング事業の効果を感じ、期待を込めて発言した。</p> <p>○北中城村立北中城中学校 校長 照喜名朝盛（以下、照喜名校長）</p>
---	---

	<p>○伊波 各学校、商工会からご感想等あったが、各学校にお聞きしたいことはないか。</p> <p>○伊波 まず、学校の方で希望調査を行っている。それを踏まえて、商工会や中小企業家同友会から紹介頂いた企業にお願いするという流れである。ただ、全員の希望の通りにはならないということ（も伝えながら）、やはりまだ中学生ということで、漠然とした将来の夢というのが選択に際して非常に大きいため、そこに向かうために違う職業を体験して、本当に自分に向いているのか等について考えてもらう機会にしている。</p>	<p>中学 2 年生が将来に向けて職場体験を行った。ケイオーパートナーズと連携しながら、将来についての講演、マナー講習を行った。職場体験は、45 事業所について生徒の希望をとって参加することができた。事業所の皆さんのご協力があり、とても良い体験をしたという報告があった。中には、将来そこにぜひ行きたいという生徒もいた。また、ちょっと期待と少し違っていたかも、と（の生徒もいたが）、新たに職業選択の幅が広がった体験をしていたとの話だった。子ども達は「君たちが大人になる 10 年後は、今ある職業の半分はなくなって、新しい職業に変わる」と講演で聴いている。実際は今足元にある事業所としっかり連携して次どうしていくか、を職業人講話のまとめ（にお話しした）。</p> <p>11 月 3 日、港川中学校を会場に、全九州があつまる九州地区の進路研究大会があり、本校木村先生が沖縄県を代表して、キャリア教育についての発表をした。その中でグッジョブ協議会と連携がとれたことを事例紹介したところ、他府県の先生方が非常に興味を持ち、活発に話し合いができたとの報告を受けている。すばらしい取組み紹介だったと聞いているので、そういう意味では本校としても今後の取組みが非常に期待できていると思っている。</p> <p>○新垣会長 職場体験の希望調査はどのように行ったか？</p> <p>○照喜名校長 普段学校へ行きたがらなかった子が職場体験に行って、自分の希望にマッチしたようだと話している。</p> <p>○新垣会長 例えば学校よりもこの職場がいいと？。</p>
--	---	--

<p>○高里 「大人はなぜ働くのか？」という問について。動機づけの機会として（私たちからも質問を投げかけて）子ども達に考えてもらっている。何か答えがあって質問しているのではなく、「仕事とは」、「働くとは」等、今現在将来の夢が決まっている子も決まっていない子も、ではなかったらどうするか、なる前はどうか、なるためにどうするのか等、ジョブシャドウイングの中でもヒントを見つけられるよう、まずは問いかけてみんなに考えてもらっている。「それぞれの考え方がある」という事を事前学習の中で伝えている。</p> <p>○喜屋武 ジョブシャドウの観察シート等あるが、なぜ働いているのかというメンターへの質問がある。事前学習で「人は何で働くのか」と考えさせると、小中学生約9割はお金と答える。お金もそうだが、それ以外に働く理由もあると思うからメンターに質問しなさい、と言って聞かせる。聞かれる大人も考えることにもなる。</p> <p>○伊波 今回、島袋小学校の事前学習がたまたま授業参観の日で、普段は「働くって何だろう」という問いは、私たちや学校の先生にふって学校の先生方の働く思いを語って頂いている。今回、来校した方々を巻き込んで自分の親や友達のお父さんお母さんに「何で働いてるの？」と児童から保護者にインタビューをさせた。「あんたたちが大きくなるためだよ」というような答えが出る等、いろいろな「働く」があると児童が気付いた上で、実際に体験に行くという流れで指導している。</p> <p>○喜屋武 今年の島袋小学校では、自分の子どもがジョブシャドウイングの対象者ではないが、去年観察学習をした児童の母親が出発式を見るためだけに来校した方が何名かいた。村内でかなり関心が高まっていると感じる。</p>	<p>○照喜名校長 この仕事につきたいという思いが強くなったようで。（学校生活にも影響があり）非常に効果があったようで、良い体験をしたと思う。</p> <p>○教育委員会生涯学習課 課長 名幸芳徳（以下、名幸課長） 小学校の子ども達に「なぜ働くのか？」と質問を受けたのですが、なんと答えたらよいか。</p> <p>○照喜名校長：保護者はどうかかわるのか</p>
---	--

○伊波

ジョブシャドウイングの受入れ先が、各事業所への送迎は保護者の協力が必要である、保護者は子ども達の企業へ行く前の緊張した様子と迎え時の終わった安心感と楽しかったという感想を述べる様子を見る。そのおかげで、保護者にジョブシャドウイングを認識して頂き、「ジョブシャドウイングを（会社で）受入れている」「大変良い取り組みだと思う」等いろいろなところから感想も頂いている。各地域に定着している様子が見られる。

○高里

教育委員会の名幸課長からヒアリングシートにて「受入れを渋っている事業所もあるのではないか」とあるが説明をお願いしたい。

○伊波

マスコミに関しては、各新聞、TV等に毎回案内を流している。村内にも通信員がいらっしゃるとお聞きしたので、マスコミの取材が当日なければ、私たちが記事

○名幸課長

僕らも受入れて4～5年なるが、児童生徒が会社から資料やパンフレットもらっており、各家庭で話し合っているようだ。時々僕もお父さんたちと会う機会があったりすると「子どもがそちらでお世話になったようですね、聞いてますよ」等、と聞くことが何回かある。そういった体験学習が各家庭、親子でこの会社に行ったんだよという話し合いが行われているようだ。地域の父兄と学校と企業とで交流も期待ができ、密になっていると感じる。

○名幸課長

先ほど商工会の安里会長からもあったように、決算時期や各職場で忙しい時期等、業種、事業所によっても違うかと思うが、少し大変かと思った。受入れできる企業が350くらいで、その中から選ぶのはたやすいようで、結構大変なのでは。協議会が難儀しているのではないかなと感じている。よくやっていると思う。ただ、その分、大変さが少し感じられた。

マスコミの件。先ほどもラジオで1週間放送されたとの報告があった。結構、他の人のもちよこちよこ（新聞社に情報を流しているようだ）。新聞の地方版等、しつこくよびかけたい。「村の担当の記者団の要請でやるよ」とどンドン呼びかけて、出発式や事業所で体験している様子等、全部できるだけアピールした方がよいと思う。児童生徒がいる家庭では子ども達から聞けるかもしれないが、ほかの一般世帯は機会がないので、そちらの情報を広めるためにマスコミも活用してほしい。

をまとめて通信員の方に提供するような形で進めていきたいと思っている。先日のラジオ放送（取材の様子）の音源を、第3回協議会の際に一部お聞かせしたいと思っている。

○喜屋武

先ほど中学校校長からもあったが、11月2日の九州大会、私も拝見した。木村先生が発表後、他の九州の先生方に囲まれていた。皆さんからは、「北中城村では村の一つしかない中学校のために、こんなにたくさんの大人が関わっていてマニュアルもあり企業説明もやっていて羨ましい」との感想がたくさん寄せられたとのこと。マニュアルとは各企業に配ったもので、本日は持参していないが、発表の際に来場した各県の先生方に配っており、各地でもコピーして使いたいとのことだった。木村先生のご報告は大変な反響であった。

○喜屋武

先ほどうちの高里の発表した活動も含め、北中城村はグッジョブもあり、“わった一わらば一た”のテーマのもと、協議会を含め、子ども達に地域が二重三重に支援しているという報告を聞いて、木村先生は休み時間にも他の他府県のたくさんの先生に囲まれて、私も鼻が高くなって帰った。良かった。

○高里

伊波からもあったように今回の2回目の協議会にて、ぜひ次年度の計画の参考にもさせて頂きたく、ぜひ忌憚なき意見を頂戴したい。  
先ほどは北中城小学校様からもご希望の時期などご意見があった。その他、または支援協力の部分で課題や困ったこと等があれば、ぜひご意見頂戴したい。  
今回職場体験でご協力いただいた北中城中学校はどうか。

○照喜名校長

その通りで、パワーポイントで発表して、大好評だった。

○照喜名校長

特に学校からはないが保護者からのアンケートで気になる点がある。職場体験の事業所へ教職員が激励に行く。たまたま食事を出す定食のお店に訪問した際、激励を込めて食事をしたことについて、保護者からは「やめてほしい。せっかく子ども達が体験しているのに先生方がそばで食べていると困る」と意見が出ていた。保護者との考えの食い違いが少しあった。給食もあるので、先生方は食事をするために行動したわけではなく、激励の意味で食事をしているこ

<p>○喜屋武 このお母さんから直接「アンケートに書いた」と言われた。この先生はきっとその場所で受入れてくださった企業のメリットがないかと思って、1食分でも2食分でもお金を落としていこうという気持ちで食べたのを親御さんはそういう風に受け取ってなくて「あれはいかがなものか」との話だった。その場は「そうですか」と聞いたが、何かの機会には自分たちの子どもを受入れて頂いたからこそ、協議会のメンバーも親御さんも、「食事をしましょう、利用しましょう」と話ができたらいいなと思う。</p> <p>○喜屋武 ちなみに、小学校（ジョブシャドウイング）では、物を壊した時における保険は入っている。コードに引っかかってTVカメラ壊した等に対応できる保険。</p> <p>○伊波 こちらは次年度、事業費の兼ね合いもあるので事務局の企画振興課と相談しながら検討していきたい。 小学校の先生方からご意見、ご要望等ありましたらお願いしたい。</p>	<p>とを保護者にも理解してもらいたい。</p> <p>○照喜名校長 中学校から職場体験について。先ほど会長から話があったように、例えば、物を壊したり、受入れている職場に何らかの損失を与えたり等の可能性はゼロではない。そこで対応できる保険の加入について、次年度は検討しないといけないという事で、今協議している。職場体験を生徒は頑張っているが、その分保証する対応をしないと、受入れる事業所に対して（学校も）気になっている。本来仕事が10あるとしても、危ないから、壊すから、と体験に制限が出るともつたいない。保険の適応を検討している。</p> <p>○照喜名校長 今回、中学校は入ってなかったということだったので、次年度しっかり加入したい。</p> <p>○安里会長 建設関係、現場に入る時に保険が必要に思う。加入して方が安心だ。</p> <p>○知念校長 要望ではないが。先ほど琉球銀行の件（すごく緊張していた）もあったが、こういう機会を増やしていくことは本当に有意義なことだなと思っている。やはり子どもたちは体験が少ないと思う。体験を</p>
---	---

<p>○高里 今お話し頂いた「きたなかキッズ JOB クラブ」は北中城村のリーダーの育成を目指している。村内の歴史、文化から始まり、未来の姿や特産品、地域の魅力を 6 日間の活動を通して学ぶプログラムである。今年度は（受入れ事業所）開拓と児童募集で私たち事務局が難航した所があり、各自治会の方々、教育委員会の方々にギリギリまでお願いをし、少しご迷惑をおかけした部分があったかと思う。その中でも 45 名の応募の中から 36 名参加することができて、今年 5 年生、4 年生だった子どもたちが、また来年参加したいと体験先の事業所に伝えていた。「また私ここの体験に行くからね」と伝えていた。また、流しそうめんの交流会が大変良かった。このようなプログラムを私たちは要素として今後も継続したく、また子どもたちと楽しみ合いながら学び、地域の人たちと交流を深める等の環境を作ることが重要だと思っている。</p> <p>○伊波 今回（きたなかキッズ JOB クラブ）開校式には、教育長や天久議員にお越し頂きご挨拶頂いた。教育長から何か、この取組みへの期待や次年度こういうことをして欲しい等の要望等ございましたらお願いしたい。</p>	<p>増やし、知らない人との関わりを増やしていくことは、今のお子さんにとって大事なことでと考えているので、ぜひこのような取組みを充実させていきたいと考えている。今、具体的な案があるというわけではないが、夏休みのキッズ JOB クラブの活動は凄くいいと話している。30 名ほどの小学生が体験しているが、夏休みの一週間程、普段家庭で体験できないことを体験することがキャリア教育としてとても大事なことで。ぜひ今後も継続していきたいと思う。</p> <p>○北中城村教育委員会 教育長 森田孟則氏（以下、森田） ヒアリングシートにも書いたが、やはり全体を通して、私たち大人が関わった分、子どもたちが変わっていくとつくづく感じている。校長先生からもあったが、多くの体験をすることによって、心持が豊かになっていくと感じる。また、喜屋武さんからもあったが、一昨年 2 月、北中城は「関わり宣言」を行った。キーワードは「わったーわらばーたー」「地域の子どもは私たちが育てる」に賛同した 83 団体の取組みが具現化されたのが、この取組みだと思う。この関わり幅の広がりをお的事业で展開されていると感じている。紹介があったが、昨年度のチャレンジジョブと比較して今年度のキッズ JOB クラブを考えていく時に、子ども達の主体的な参加があった。昨年度を振り返ると、ややもすると「行きなさい」とか、もう</p>
---	---

	<p>○伊波  教育長からもあったように、昨年度、学校の敷居が高いというお話もあった。しかし、事務局でも先生方に伝えられていない部分も多いと感じ、この協議会の取組みについて先生方に伝えたいと思っていた。前任の指導主事と相談して、今年度、キャリア教育講演会を7月に実施して、その中でお話しすることができた。この件について、伊波指導主事からご感想とご意見等あればお願いしたい。</p>	<p>ちょっと表現悪くすると連れてこられたような積極的でない児童が多かった。今年度は8団体の賛同を得、子ども達が主体的に参加をしていた。そうめん流しの報告もあったが、子どもたちは保護者企業が見守っているという愛情を感じて、心が豊かになって、感謝の気持ちを述べていく、この一連を感じて非常にうれしく思った。北中城高校の取組みを見て、教育委員会のコーディネーター、村の職員が参加をして頂くことは、これまでにない幼小中高の連携の入り口になったかと思う。課題等いろいろ出てくると思うが、2月の第3回協議会に向けて、思いを出し合って、次年度計画に反映させて頂けたらと思う。最後に、昨年度の事業スタート時にケイオーパートナーズ担当の方が個人的に私に言ったことは、「教育長、学校の敷居は高いですね」だった。学校側先生方からは「また厄介なちょっと聞き慣れない事業が入ってきた」とのことだった。今日の協議会の場で、3校の校長教頭からこの事業の評価をもらい、取組みの成果を聞くことができ大変うれしく思う。</p> <p>○北中城村教育委員会 指導主事 伊波寛仁（以下、伊波主事）  私もヒアリングシート“良かった連携”として夏季休業前の研修を記載した。この研修は幼小中の先生方が参加したもので、今年度喜屋武さんにお越しいただき、講演会をやっていた。これは大きな成果があったのかなと思っている。先生方からとったアンケートは、教育委員会から校長会、教頭会、教務・研究主任へ、研修を受けての意見としてシェアしている。今日のアンケート集計資料も素晴らしい。40数ページにわたっており、フォントがとても小さくすごい量だが、事前指導にあられた先生方やケイオーパートナーズの頑張りと考え、ぜひこれを実際参加した子どもたちにかえせばとても大きな自信や学びになると思う。  資料15頁の小学校、37頁の中学校回答について。「体験を通して、大切にしたいと思ったことは何ですか」という問いに、喜屋武さん</p>
--	--	--



<p>○伊波 今回、アンケート集計資料は子ども達からもらった回答を全て載せている。報告書にはこの中から抜粋して掲載ができるよう、もっとコンパクトにしたい。</p> <p>○高里 ここからは、次年度の活動に向けて、ご要望や取組んでみたいこと等ご意見頂きたい。まず、教育委員会喜納様より「起業する選択肢も取り入れてみては」というご意見があった。具体的にどのようなものかご説明頂けるか。</p> <p>○伊波 今、どういうアンケートを取ったら測れるかなとイメージしながら聞いていた。また検討させて頂きたい。幼小中学校の間に連携できているので、ぜひ小学校の時の就業意識と中学校の時の就業意識がどのように変化したか、またそれがどのように主体的な進路選択や高校選択につながったか、私たちと各学校と連携しながら、今後アンケート等で成果を測れるよう取組んでいけたらなと思っている。</p> <p>○高里 平成24年度にジョブシャドウイングがスタートした。今の高校1年生の一部と、北中城中学3学年の全員がジョブシャドウイングを経験している。どのように繋</p>	<p>の講演会で（社会で必要とされる力として）出ていた「挨拶」「人間関係、コミュニケーション」「委員会活」「勉強」「学習」等の回答が小中学校共通して出ている点に注目した。小学校から中学校の子どもたちの学び、成長につながっていくものだ。（この結果を受け）本当にありがたいと思っている。また、この貴重なデータを次年度以降どうやって引継いでいくか、またこれをコンパクトにしながら子ども達や保護者にも伝えていくことも大事だと思っている。</p> <p>○北中城村教育委員会 教育総務課長 喜納克彦（以下、喜納課長） 直接ケイオーの方で企業開拓しているので聞いているかもしれないが、もしかしたら子ども達へ聞き取り・ヒアリングをしても興味深いかと思った。先生からも少しあった意見だが、どの企業さんの事を言っているというのは、みなさん企業開拓しているので分かると思う。そこから子ども達1人1人の職業観に結びつけてやっていけると思う。</p> <p>あと一つは、個人的な意見だが、小学校でも中学校でもやるのであればこの子どもの職業観がどう変わっていくか、これを子ども達に渡したい。小学校では「ドリームウォール」に取り組んでいる。小学1年生から6年生までの取組みとして、夢と同じように職業観も変わるだろうから。</p>
---	--

がっているか、我々もまだヒアリングやアンケートをしっかりと取れていない。  
先日北中城高校の校長先生から、今年度の1年生は聞く態度が素晴らしいとご意見を頂いた。また中学校でも、小学校6年生の取組みから繋げて、職業観がどのように変化していったか計測できるアンケートの取り方を検討して、実施結果をご報告できればと思う。

続いて、父母教師会 名幸様、中学校から保護者向けのキャリア教育講演会等で要望も上がっているが、どのような支援があるとよいか、保護者の立場から少しご意見頂けるとありがたい。

○高里

今年度は、先ほど中学校の紹介にもあったが、事業所向けの職場体験受入れマニュアル中で、事業所が職場体験を受入れることのメリット、会社の士気があがる、担当された職員の方が改めて自分の作業や事業について振り返る機会になったり、実際に職場体験を受入れることによって離職率が低くなった、職場の定着率が上がった等の事例があること等、まとめたマニュアルになっている。職場体験前の合同説明会でマニュアルを活用し、今年度の取組みにご協力くださる皆様へ説明した。次年度以降の受入れでどう効果が出てくるかも期待している。

○伊波

次年度ぜひこういうことをやってほしいというご要望等はあるか。

○北中城村父母教師連合会会長 名幸利積氏（以下、名幸会長）  
先ほど子ども達に働く目的は何かと言ったら、ほとんどお金って言ったという。これ保護者に聞いてもそう答える親が多いと思う。親自身が、働く目的が何なのか、毎日の生活の中で稼がないと飯食えないというのが現実なので、親のキャリア教育の大切さというのが、もう一度親も子ども達と一緒に働く意味というのを勉強する機会になるのではと思って、保護者に向けての講演会というのは必要だと思う。

あとは受入れ先の企業の方々が、働いている、仕事している最終的な喜びというか、それが何か声を子ども達に聞かせてほしいと思う。パン屋やケーキ屋等、お客さんのこんな声があって、とてもよかったとか。会長の会社などは公共工事とか、工事を主体にしているので工事をした後発注者や団体から表彰を受けたり、そういうことが働く喜びになっている会社としての目的の一つだと思うので、こういうのも受入れ先が子ども達に教えてほしいと思う。働くという過程だけを教えるのではなくて、何のために、そういう楽しみ、喜びがある、ということを教えてほしいと思う。

<p>○伊波  ぜひとも次年度に向けてご一緒させて頂ければと思う。皆様から頂いたご意見ご要望等踏まえて事務局で協議をして、次年度どのような取組みにするか計画していきたい。ここまでの協議を踏まえて、天久議員にご感想等を頂ければと思う。</p> <p>○伊波  ぜひまた、観光協会も創設されたということもあるので、そちらとも連携しながら、次年度以降何かできたらなと思っている。最後に、受託事業所としてケイオーパートナーズの富田から一言お願いしたい。</p>	<p>○安里会長  商工会から。地域のみなさんにこれまで取組んでいただいた事業が、小中高校生の人材育成となって、村出身の若い人たちが社会に出て地域の企業に就職する等、やはり意義があり、環境面でも事業が評価されていると思う。受入れている事業所も経験を積んでいるので、大体来年もやろうと歓迎している。商工会としても今後、受入れ企業や会員利用者をもっと拡大したいので、事務局の担当者を交えて商工会理事会等の場で説明会を行うなど、私たちも説明するのでお互いの関係者にももう少し情報を浸透させるようご協力いただきたい。商工会の職員も会員企業を回ったりしたので、事務局には時々一緒に巡回で行動して頂ければなと思う。</p> <p>○北中城村議会 建設文教委員長 天久朝誠氏（以下：天久副会長）  皆様の意見を聞いていて、子ども達への事業は、最終的には北中城村を知ってもらうこともあわせてやって頂いてると思う。この取組みは、将来、北中城で仕事をするにも外国で仕事をするにも非常に大事なことだと思っている。外国に行って自分たちの歴史や文化を語らなければいけない場面にあった時、それを知っていないと相手には真剣に伝わらないと思う。そのために、せっかく観光協会もできているので、ケイオーパートナーズ企画進行としてぜひ村内の観光や歴史文化を極めるためのテストや子ども達がスキルアップしていく取組みを作って頂いて、北中城村に詳しくなるチャレンジできる方式を作って頂きたいなと思う。村長や村職員もこの検定を受けていけば人事につながる等、自分の村のことをしっかり知っている、検定を持っているような人が増えたらいいなと思っている。今後、きたなかキッズ JOB クラブはみんなに一律にやるのではなく、スペシャルな取組みとして、定員をオーバーするくらい、もっと価値のあるものに高めていただきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>○株式会社ケイオーパートナーズ 代表取締役社長 富田治敏  第1回目協議会の時、昨年度の実績についてお話し頂いて、教育長</p>
--	---

<p>6. 閉会</p>	<p>○伊波 これで意見交換を終了する。今回のご意見を元に、事務局内で次年度の計画を立てていきたいと思う。また、次回第3回協議会では次年度の計画についてご説明したいと思っている。開催は2月2週目または3週目頃予定している。それでは新垣会長に進行を戻したい。</p> <p>○新垣会長 色んな意見があって良かったと思う。スタートでは何があるかよく分からないようなこともあって皆とまどった。天久さんから役場職員の課題も言って頂き、毎年やっていくとおそらく内容も質も高まっていくだろう。これはすべて子ども達のためなので、ぜひ今日ご参加いただいた学校現場の先生方、教育委員会、商工会、皆さんが連携し意見を集約して、ケイオーパートナーズにしっかり組立てて頂ければと思う。第3回、次年度に向けてよろしくお願ひしたい。</p> <p>○北中城村企画振興課長 石渡一義 今、村企画振興課では商工業を進めていて、(グッジョブでも)職業意識を高める取組みを行っている。実際に働く場所を増やしていきたいと思っている。村では特に3つに力を入れていて、一つは観光の仕事、もう一つは商工会会員企業の力を伸ばしていく、三つめが農業を伸ばしていくこと。観光については8月に観光協会を設立したので、これから観光振興を高めて行きたいと思う。二番目の商工業の発展については、実は昨日までイオンライカムで葛巻町との交流物産展をやっていて、今回、村内から13企業が出店した。商工会も一緒にやったが、非常にいい売上げなので新しい仕事のつながると思う。三つめの農業については、植物工場の調査を始めたところである。これは台風等の影響を受けない。それで将来仕事につながっていければと思っている。最後に、天久議員からあったが、実は村の歴史と観光をマンガ本にした。できあがったら使っていただければと思う。今日は出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>○伊波 第2回北中城村グッジョブ地域連携協議会を終了する。</p>	<p>からもあったように、JOBクラブに児童が自主的に参加していないのではないかと、ご意見があった。それも踏まえて、社員には「絶対摩擦を恐れるな。学校の仕組みや環境(を知って)、学校とちゃんと話せば誤解も解けるし、産業界もわかってくれる」と話をしてきた。今後も北中城のためにさらに頑張るのでよろしくお願ひしたい。</p>
--------------	---	--